

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	125人	社会	125人	数学	125人
	理科	123人	英語	123人		

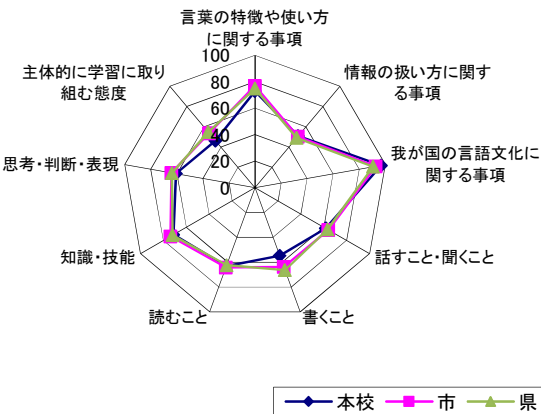
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.0	76.9	74.9
	情報の扱い方にに関する事項	50.8	50.3	49.2
	我が国の言語文化にに関する事項	96.8	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	61.7	64.2	63.4
	書くこと	54.8	63.7	66.4
	読むこと	63.2	64.2	62.5
観点	知識・技能	71.3	73.7	71.9
	思考・判断・表現	60.6	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	46.4	53.8	54.8



★指導の工夫と改善

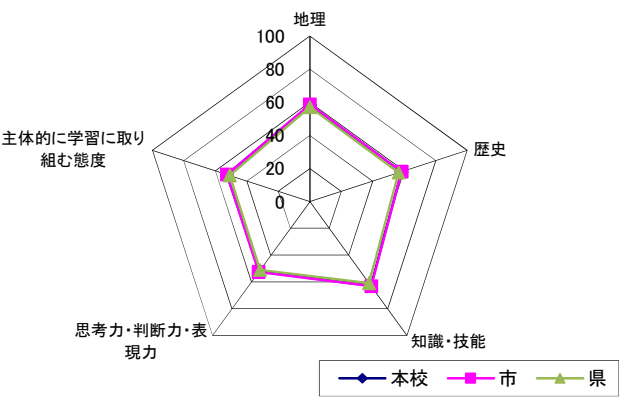
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	本校の平均は県や市の平均を下回っている。 ○『敬う』など、小学校で学習した漢字を書くことができています。 ●『渡航』など、中学校第1学年で学習した漢字を読むことや、文法の単語に区切ることが苦手である。	デジタル化が進む社会においても、漢字学習は読むことができれば始まらない。音読みと訓読みの特徴をよく理解し、未知の漢字と出会ったときにも自信をもてるよう、確かな知識を伝えていく。また、文法は言葉の単位から始まるので、文節という単位の下に単語という単位があることなど、単位どうしの関係性に着目するよう促していく。
情報の扱い方にに関する事項	本校の平均は県や市の平均と同程度である。 ○説明的な文章の内容を読み取るなかで、情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈することができている。 ●こま遊びについてスピーチするなかで、情報と情報との関係について理解し話の構成を考えることが苦手である。	情報と情報とを単語レベルで比較することができても、それを文や文章に並べ立て、整理して表現しようとするとう困難を感じてしまう。単語→文→文章というように、理解したものを並べて表現する活動を取り入れていく。
我が国の言語文化にに関する事項	本校の平均は県や市の平均を大きく上回っている。 ○文法・語句に関する事項について、歴史的仮名遣いについて理解することができている。	歴史的仮名遣いは、伝統的言語文化の第一歩である。古語ならではの表現のおもしろさや、古の見方・考え方に触れるなど、生きた日本語を用いて授業を行っていく。
話すこと・聞くこと	本校の平均は県や市の平均を下回っている。 ●話し合いの内容を聞き取るなかで、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることが苦手である。	授業での音声言語を介した対面でのコミュニケーションが難しい時期ではあるが、情報が素早く流れていく「話しことば」ならではの対話活動を行っていく。
書くこと	本校の平均は県や市の平均を大きく下回っている。 ●文章を書くなかで、指定された文字数や段落で文章を書くこと・読み取った内容や自分の考えをを明確にして書くことが苦手である。	授業場面で書いて表現する活動において、文字数を最小限に抑えて書く活動がこれまで多くあった。文字数を増やしつつ、必要な情報に優先順位をつけて書き足す指導を行っていく。
読むこと	本校の平均は県や市の平均と同程度である。 ○説明的な文章の内容を読み取るなかで、情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈することができている。	説明的な文章や文学的な文章など、教科書の内外を問わず多くの文章に触れるよう促し、さまざまな見方・考え方を身につけられるようにしていく。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	58.2	58.7	57.0
	歴史	58.2	58.3	56.4
観点	知識・技能	62.9	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	52.1	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	52.7	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

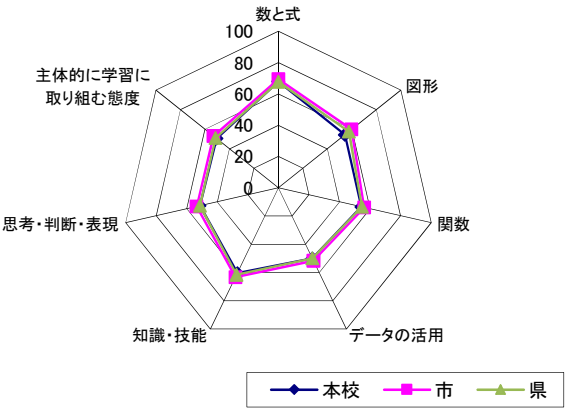
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○本校の平均正答率は県平均、市平均とほぼ同程度であり、日本の都道府県については県の平均を4ポイント程度上回っている。 ●世界の諸地域の農業や工業について、資料をもとに考察する設問において正答率が低い傾向にある。	・どの地域でどのような産業が発展しているのかを、気候や地形などの条件から結び付けられるようにし、基礎的な学力の定着を図る。特にアジア、ヨーロッパの主要な国の違いを読み取れるようにしていく。
歴史	○各時代の特色についての理解を問う設問は、正答率が6割を超えるものが多く、基礎的な学力は定着していることがわかる。 ●県・市平均同様に記述問題への無回答率が高い傾向にあり、自らの考えを自分の言葉で表現することが苦手である。	・学んだ内容を生かし、自らの考えを説明する機会を多く設けることにより、思考力・判断力・表現力の育成を図っていく。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	67.8	69.3	67.7
	図形	54.4	59.8	57.7
	関数	54.3	56.2	54.7
	データの活用	50.0	51.6	49.9
観点	知識・技能	60.3	63.2	61.5
	思考・判断・表現	51.4	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	50.5	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

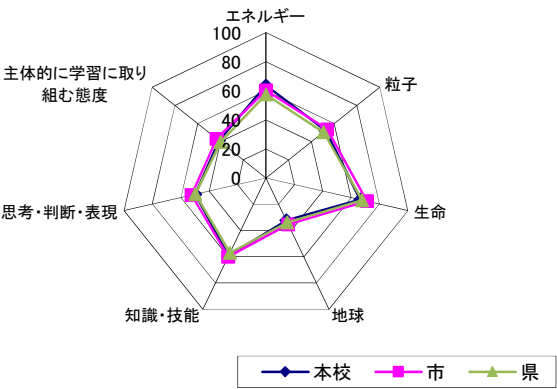
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	本校の平均正答率は県の平均とほぼ同じで、市の平均よりも低い。 ○1次式の減法の問題の正答率は62.4で、市を5.3ポイント、県を5.1ポイント上回っている。 ○数量の関係を不等式に表す問題の正答率は50.4で、市を2.7ポイント、県を5.9ポイント上回っている。 ●負の数の累乗の計算の問題の正答率は75.2で、市を6.7ポイント、県を5.9ポイント下回っている。	・数と式の領域の正答率は67.8と他の領域に比べて高く、文字式の基本や、方程式の解き方などを理解している生徒が多いことが読み取れる。今後は、早く正確に計算をするだけでなく、計算の構造の理解を深め、計算が正しかったかどうか自ら確認できる力の育成を図る。
図形	本校の平均正答率は県、市の平均よりも低い。 ○空間図形の球の表面積を求める式の理解の問題の正答率は50.4で、市を1.9ポイント、県を5.0ポイント上回っている。 ●平面図形の回転移動を用いて説明する問題の正答率は27.2で、市を10.9ポイント、県を8.8ポイント下回っている。 ●模様の基となる三角形の模様を選ぶ問題の正答率は52.8で、市を12.7ポイント、県を10.3ポイント下回っている。	・公式に当てはめて解く問題はできているが、説明する問題を苦手としているため、授業の中で数学的な用語を用いながら説明する場面を多く取り入れていくようにする。
関数	本校の平均正答率は県の平均とほぼ同じで、市の平均よりも低い。 ○比例の式からグラフをかく問題の正答率は50.4で、市を同じ、県を3.6ポイント上回っている。 ●関数についての理解を問う問題の正答率は33.6で、市を4.6ポイント、県を6.9ポイント下回っている。	・表、式、グラフの関連性を改めて確認し、関数の概念やそれぞれの関数をもつ特徴についての理解を深められるような時間を十分確保する。
データの活用	本校の平均正答率は県、市の平均をほぼ同じである。 ○相対度数を用いる理由の理解を問う問題の正答率は55.2で、市を8.2ポイント、県を11.1ポイント上回っている。 ○度数折れ線から読み取った傾向をもとに、説明する問題の正答率は45.6で、市を3.8ポイント、県を5.3ポイント上回っている。 ●度数分布表から相対度数を求める問題の正答率は40.8で、市を9.4ポイント、県を8.4ポイント下回っている。 ●中央値に関する説明文を選択する問題の正答率は51.2で、市を5.3ポイント、県を5.2ポイント下回っている。	・各用語の意味を理解するだけでなく、活用できるように関連性や活用場面について、できるだけ多くの例を示しながら理解を深められるような時間を十分に確保する。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	63.6	60.3	57.4
	粒子	52.4	53.8	50.7
	生命	66.5	71.2	67.8
	地球	32.3	35.3	33.8
観点	知識・技能	59.2	59.9	57.0
	思考・判断・表現	49.8	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	41.3	43.3	39.8



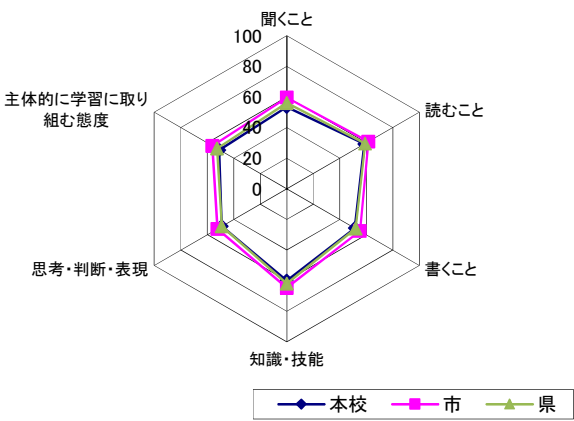
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	県の平均から6.2ポイント、市の平均から3.3ポイント上回り、領域としても60%を超えていた。 ○おもりにしたらく重力とばねののびの関係をグラフに正しく表す問題の正答率は72.4%であり、県の平均から19.4ポイント上回った。このことから実験結果をグラフに変化させる技能が定着している。 ●虹のような帯が見える現象が光の屈折に関係する現象であることを問う問題では、正答率が43.1ポイントと50%を下回った。学んだ知識が自然現象の中でどのように活用されているかが結びついていないといえる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も実験結果を活用し、表やグラフにまとめる作業を欠かさず行うことで、実験結果をまとめる技能の定着を図っていく。 ・学習した内容が身の回りでどのように活用されているかを調べる活動や、自然現象などを再現する模範実験などを見せることで、学習した内容と身の回りの自然現象とのつながりを生徒が学習できるようにしていく。
粒子	校内平均が県、市とも大きな変化は見られないが、正答率が50%に近く、苦手な生徒も少なくないことが考えられる。 ○金属と非金属に分類する基準を問う問題の正答率は72.4%と県の平均より7ポイント上回った。金属の性質について正しい知識が定着しているといえる。 ●水素の性質の知識を活用して水素自動車から排出される物質を考える問題の正答率は48.8%と50%を下回った。このことから、学習した知識を活用することに課題があることがわかる。また、水溶液の濃度や溶解度に関する問題の正答率がどれも30%を下回り、知識の定着が不十分であるといえる。	・今後も実験の結果をもとに物質の性質を考察させる活動を行い、体験的に学習することで物質の性質などの正しい知識が定着するようにしていく。 ・濃度を求める計算式などの学習は学んだ式を活用して実際に溶液を作成する活動など学んだ知識を活用する場面を増やすことで知識が定着ようにしていく。
生命	校内の正答率が66.5%ではあるが、市や県の平均より下回る結果となった。 ○動物の分類方法や植物のつくりに関する基礎的な知識は定着している。 ●軟体動物の分類分けの問題では、正答率が33.3%と低く、動物の分類による知識の定着率に差があることがわかった。	・生徒のもつ興味関心を刺激し、意欲的に授業に取り組める導入の工夫をし、多様な生物についての知識が系統的に整理できるような授業を行っていく。
地球	校内の正答率は32.3%であり、多くの生徒の中で地球領域の知識の定着率が低いことがわかった。 ○地震によっておこるP波やS波に関する知識や初期微動継続時間を測定する問題の正答率が60%を上回り、地震に関する知識が定着していることがわかった。 ●地層の柱状図から、地層が堆積した当時の河口からの距離の変化を考える問題では、正答率が28.5%と県の正答率から7.1ポイント下回った。柱状図から地形の変化を読み取ることを苦手としている生徒が多いことがわかる。	・地層の変化や作りについてのイメージがしやすくなるよう視覚的に理解できる地層の模型や実験などを活用して、地形に関する知識や、変化についての推測ができるようにしていく。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	53.5	59.6	56.1
	読むこと	58.5	61.6	59.1
	書くこと	51.4	55.2	51.9
観点	知識・技能	59.9	64.7	61.9
	思考・判断・表現	49.1	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	50.9	56.1	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○英文の要点を聞き取ることができ、その正答率は県の平均値を4ポイント上回っている。 ●対話の内容を聞き取り、適切に応用することに難しさを感じる生徒が多い。	・今後も英語を聞き取る活動を継続していく。また、対話文の内容に慣れるため、聞き取るだけでなく、生徒同士や教師との対話のやり取りを行う機会を増やしたりする。
読むこと	○対話の流れと表から、適切な語句を選ぶ問題では、その正答率は県の平均値6ポイント以上上回っている。 ●長文の概要を掴むことに課題が見られる。	・基礎基本的な文法事項の定着を目指すとともに、長文を読むことに慣れさせる機会を増やしていく。その際、大まかな内容を理解するとともに、指示詞が何を指すのかなどを明確にできるよう反復練習をする。
書くこと	○助動詞を用いた英作文では、県の正答率を約7ポイント上回っている。 ●時制を考える問題や、正しい語順で答える英作文に課題が見られる。基本は理解できているものの、少しのミスに気づけず、誤りにつながっている。	・自分の状況や意見を書いて表現する機会を増やすだけでなく、自分以外の人やものについても説明できるように英文を考える時間を設ける。その際、時制や語順に関して、その都度助言をする。

宇都宮市立一条中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問に「はい」と回答した生徒は45.5%で、市や県を13～15ポイント上回っている。肯定割合は市や県と同等である。

○授業は目標が示されており、ノートに学習の目標やまとめを書き、振り返り活動もよく行っている。発言しやすいと感じる雰囲気の中で、集中して授業を受けているという肯定割合が市や県より高い。本時の目標を明確化することで、分かりやすい授業を心がけていきたい。授業の終末に学習内容を振り返る活動を行うことを継続していくことで、主体的に学ぶ姿勢を身につけさせたい。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」の質問に対する肯定割合は、83.7%で、市や県より1～3ポイント高い。また「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の質問に対する肯定割合は、74%で、市や県より1.5～3ポイント高い。生徒とのコミュニケーションを多くとり、質問しやすい雰囲気作りを今後も継続して行っていきたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に対する本校の肯定割合は63.4%であり、市や県と同等である。「学校の宿題をしている」肯定割合は93.5%、「授業の復習」においても肯定割合は74.8%である。また、「テストで間違えた問題について勉強している」や「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に対する肯定割合は74.8%・67.5%であり、市や県と比べて5～9ポイント高い。しかし、学力調査の結果からは意識との差がある。計画表を丁寧に作成させたり、間違えた問題の原因の究明をきちんと行わせたりするなどして、家庭学習の仕方や内容について丁寧に指導していきたい。

●学習に対して「難しい問題にであうと、よりやる気が出る」や「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の質問に対する本校の肯定割合は40.7%・69.1%であり、市や県と比べて1～10ポイント低い。しかし「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役立つと思う」の質問に対する肯定割合は91.9%と高い。諦めないで取り組むことの大切さを様々な場面で適切に伝えたり自分で解決するための方法をアドバイスしたりして自ら進んで取り組ませていきたい。

●「将来の夢や目標を持っている」の質問に対する肯定割合は、71.6%で、市の平均より1.5ポイント、県の平均より2.29ポイント高い。その反面、将来の夢や目標をもっていないと回答した割合は17.1%であり、市や県よりも2・3ポイント上回る。自分のよさを人のために生かしたいと思うや、「自分がもっている能力を十分に発揮したい」の質問に対する肯定割合は高く、また、家の人と将来のことについてや学習のことについて話すことがあるという肯定割合も高い。これから、社会体験学習や進路指導などにおいて、より自分の将来について考えるきっかけを与え、じっくり考える時間を確保していきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る。	・伝え合う力の育成に向けての学び合いの場の設定と、多様な思考や表現を生み出す学習活動の工夫をする。	・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」については、「はい」が41.5%、「どちらかといえば、はい」が41.5%と、肯定割合は市、県より5～7ポイント高い。
	・単位時間における授業のねらいを明確化し、見通しを立てて主体的に取り組めるよう支援する。	・「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」については「はい」が54.5%、「どちらかといえば、はい」が37.4%と、肯定割合は市、県より4ポイントほど高い。
		・「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」については、肯定割合は市、県より1～2ポイント高いが、「はい」の割合は、市、県と同程度である。
		・「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」については「はい」が78.9%と、市、県より2～9ポイント高い。
		・「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」では、「はい」が71.5%と、市、県より10～16ポイント高く、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」についても、市、県より5～10ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」について「はい」と答えた生徒の割合は35.8%で、市、県より4～8%高い。 学力調査の結果からも、「書くこと」の結果が市、県の平均から下回っていることが見受けられる。 本校の生徒は自己肯定感が高く、学習も楽しいと感じている生徒が多いことが調査結果から読み取れる。また他者に向けて発表することに抵抗がなく、グループの話し合い活動も積極的に行っている。 しかし、疑問に思ったことを一人で解決しようとする意識が市、県の平均より低く、他者に聞いたり、ネットで調べたりして問題を解決しようとする傾向が強い。 (「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定割合は、市、県より大きく上回る。)質問できる姿勢はよいことだが、じっくりと考えて自分の考えをまとめたり書いたりすることが苦手である。 また、学習の重要性を意識し、前向きに授業に取り組んでいる半面、課題によっては学力の定着が十分ではない部分もあることが分かった。	○内容や課題を総括的に見たりまとめたりする能力の育成 ○問題解決のための思考の育成 ○学力の定着の工夫	○物事を総括して考えたり、深く掘り下げて考えたりする場面を学習活動の中に取り入れる。 ○本校は、読書活動、新聞活用(NIE)の充実を図っていることもあり、例えば新聞記事のような時事問題等の長い文章に触れ、それについて考えをまとめるような学習を繰り返すことで、自分の考えをまとめ、文章にする力の育成を図る。 ○自分なりの課題を見つけ、設定し、すぐに解答が見つけられなくとも様々な角度から解決していこうとするような姿勢を身につける課題解決学習の充実を図る。 ○これまで行ってきた家庭学習の工夫を継続し、繰り返すことの重要性や学習の工夫を丁寧に伝えていく。